



## E コマンド

---

この章では、E で始まる Cisco NX-OS Security コマンドについて説明します。

# enable Cert-DN-match

LDAP ユーザのユーザ プロファイルに、ログインが認可されているものとして、ユーザ証明書のサブジェクト DN (subject-DN) が一覧表示されている場合にのみ、そのユーザがログインできるようにするには、**enable Cert-DN-match** コマンドを使用します。この設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**enable Cert-DN-match**

**no enable Cert-DN-match**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## デフォルト

ディセーブル

## コマンド モード

LDAP サーバ グループ コンフィギュレーション

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(2)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、LDAP ユーザのユーザ プロファイルに、ログインが認可されているものとして、ユーザ証明書のサブジェクト DN が一覧表示されている場合にのみ、そのユーザがログインできるようにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# aaa group server ldap LDAPServer1
switch(config-ldap)# server 10.10.2.2
switch(config-ldap)# enable Cert-DN-match
switch(config-ldap)
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>aaa group server ldap</b>	LDAP サーバ グループを作成し、そのグループの LDAP サーバ グループ コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>enable user-server-group</b>	LDAP サーバ グループのグループ検証をイネーブルにします。
<b>server</b>	LDAP サーバを、LDAP サーバ グループのメンバとして設定します。
<b>show ldap-server groups</b>	LDAP サーバ グループの設定を表示します。

# enable

ユーザがシークレット パスワードの入力を求められた後に、高い権限レベルに移行できるようにするには、**enable** コマンドを使用します。

## **enable level**

### 構文の説明

<i>level</i>	ユーザがログインする必要がある権限レベル。指定できるレベルは 15 だけです。
--------------	---

### デフォルト

権限レベル 15

### コマンドモード

EXEC コンフィギュレーション

### コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(2)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、**feature privilege** コマンドを使用して、TACACS+ サーバでのコマンド認可にロールの累積権限をイネーブルにする必要があります。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、ユーザがシークレット パスワードの入力を求められた後に、高い権限レベルに移行できるようにする例を示します。

```
switch# enable 15
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>enable secret priv-lvl</b>	特定の権限レベルのシークレット パスワードをイネーブルにします。
<b>feature privilege</b>	TACACS+ サーバでのコマンド認可に対するロールの累積権限をイネーブルにします。
<b>show privilege</b>	現在の特権レベル、ユーザ名、および累積権限サポートのステータスを表示します。
<b>username user-id priv-lvl</b>	ユーザが認可に権限レベルを使用できるようにします。

# enable secret

特定の権限レベルのシークレット パスワードをイネーブルにするには、**enable secret** コマンドを使用します。パスワードをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**enable secret** [0 | 5] *password* [*priv-lvl priv-lvl* | **all**]

**no enable secret** [0 | 5] *password* [*priv-lvl priv-lvl* | **all**]

## 構文の説明

<b>0</b>	(任意) パスワードがクリア テキストであること指定します。
<b>5</b>	(任意) パスワードが暗号化形式であること指定します。
<i>password</i>	ユーザ権限エスカレーション用のパスワード。最大で 64 文字の英数字を使用でき、大文字と小文字が区別されます。
<i>priv-lvl priv-lvl</i>	(任意) シークレットが属する権限レベル。指定できる範囲は 1 ~ 15 です。
<b>all</b>	すべての権限レベルのシークレットを追加または削除します。

## デフォルト

ディセーブル

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(2)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、**feature privilege** コマンドを使用して、TACACS+ サーバでのコマンド認可にロールの累積権限をイネーブルにする必要があります。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、特定の権限レベルのシークレット パスワードをイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# feature privilege
switch(config)# enable secret 5 def456 priv-lvl 15
switch(config)# username user2 priv-lvl 15
switch(config)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>enable level</b>	ユーザがシークレット パスワードの入力を求められた後に、高い権限レベルに移行できるようにします。
<b>feature privilege</b>	TACACS+ サーバでのコマンド認可に対するロールの累積権限をイネーブルにします。

コマンド	説明
<b>show privilege</b>	現在の特権レベル、ユーザ名、および累積権限サポートのステータスを表示します。
<b>username <i>user-id</i> priv-lvl</b>	ユーザが認可に権限レベルを使用できるようにします。

# enable user-server-group

LDAP サーバ グループのグループ検証をイネーブルにするには、**enable user-server-group** コマンドを使用します。グループ検証をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**enable user-server-group**

**no enable user-server-group**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## デフォルト

ディセーブル

## コマンドモード

LDAP サーバ グループ コンフィギュレーション

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(2)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、LDAP サーバで LDAP サーバ グループ名を設定する必要があります。ユーザは、ユーザ名が LDAP サーバで設定されたこのグループのメンバとして示されている場合にだけ、公開キー認証を通じてログインできます。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、LDAP サーバ グループのグループ検証をイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# aaa group server ldap LDAPServer1
switch(config-ldap)# server 10.10.2.2
switch(config-ldap)# enable user-server-group
switch(config-ldap)
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>aaa group server ldap</b>	LDAP サーバ グループを作成し、そのグループの LDAP サーバ グループ コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>enable Cert-DN-match</b>	LDAP ユーザのユーザ プロファイルに、ログインが認可されているものとして、ユーザ証明書のサブジェクト DN が一覧表示されている場合にのみ、そのユーザがログインできるようにします。
<b>server</b>	LDAP サーバを、LDAP サーバ グループのメンバとして設定します。
<b>show ldap-server groups</b>	LDAP サーバ グループの設定を表示します。

# encryption decrypt type6

タイプ 6 暗号化パスワードを元の状態に変換するには、暗号化の **encryption decrypt type6** コマンドを使用します。

## encryption decrypt type6

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### デフォルト

なし

### コマンド モード

任意のコマンド モード

### サポートされるユーザ ロール

network-admin  
vdc-admin

### リリース

5.2(1)

### 変更箇所

このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、タイプ 6 暗号化パスワードを元の状態に変換する例を示します。

```
switch # encryption decrypt type6
Please enter current Master Key:
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>encryption re-encrypt obfuscated</b>	既存の難読化されたパスワードをタイプ 6 暗号化パスワードに変換します。
<b>key config-key</b>	タイプ 6 暗号化用のマスター キーを設定します。



# encrypt pause-frame

インターフェイスで Cisco Trusted Security (Cisco TrustSec) のポーズ フレーム暗号化を設定するには、**encrypt pause-frame** コマンドを使用します。ポーズ フレームの暗号化を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**encrypt pause-frame**

**no encrypt pause-frame**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## デフォルト

ポーズ フレームの暗号化をサポートするライン カードでイネーブル

## コマンド モード

Cisco TrustSec 802.1X コンフィギュレーション モード (config-if-cts-manual)  
Cisco TrustSec 手動コンフィギュレーション モード (config-if-cts-dotx1)

## サポートされるユーザ ロール

network-admin  
vdc-admin

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.2(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**flowcontrol {send | receive}** コマンドを使用して、インターフェイスでフロー制御をイネーブルにする必要があります。

**no encrypt pause-frame** コマンドを入力した場合、ポーズ フレームは暗号化されずに送信されます。  
**encrypt pause-frame** コマンドを入力した場合、ポーズ フレームは、Cisco TrustSec リンク上で暗号化されて送信されます。

半二重モードのインターフェイスでは、Cisco TrustSec をイネーブルにできません。インターフェイスが半二重モードに設定されているかどうかを調べるには、**show interface** コマンドを使用します。



(注)

F1 シリーズ モジュール、F2 シリーズ モジュールおよび N7K-M132XP-12(L) モジュールはクリア ポーズ フレームだけをサポートします。他の M1 シリーズ モジュールはすべてセキュア (暗号化および復号化) およびクリア ポーズ フレームをサポートします。



注意

ポーズ フレームの暗号化または復号化の設定を有効にするには、インターフェイスのイネーブル化とディセーブル化を行う必要があります、インターフェイス上のトラフィックが中断されます。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

**例**

次に、インターフェイスを復号化する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 2/2
switch(config-if)# cts dot1x
switch(config-if-cts-dot1x)# no encrypt pause-frame
switch(config-if-cts-dot1x)# exit
switch(config-if)# shutdown
switch(config-if)# no shutdown
switch(config-if)# exit
switch(config)#
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>cts dot1x</b>	インターフェイスで Cisco TrustSec 認証をイネーブルにして、Cisco TrustSec 802.1X コンフィギュレーションモードを開始します。
<b>cts manual</b>	インターフェイスの Cisco TrustSec 手動コンフィギュレーションモードを開始します。
<b>show cts interface</b>	インターフェイスの Cisco TrustSec 設定情報を表示します。

# encryption delete type6

NX-OS デバイスで強力的に暗号化されたパスワードを削除するには、**encryption delete type6** コマンドを使用します。

## encryption delete type6

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### デフォルト

なし

### コマンドモード

任意のコマンドモード

### サポートされるユーザロール

network-admin  
vdc-admin

リリース	変更箇所
5.2(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、強力的に暗号化されたパスワードを削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
encryption delete type6
Please enter current Master Key:
switch(config)#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>encryption re-encrypt obfuscated</b>	既存の難読化されたパスワードをタイプ 6 暗号化パスワードに変換します。
<b>key config-key</b>	タイプ 6 暗号化用のマスター キーを設定します。

# encryption re-encrypt obfuscated

既存の難読化されたパスワードをタイプ 6 暗号化パスワードに変換するには、**encryption re-encrypt obfuscated** コマンドを使用します。

## encryption re-encrypt obfuscated

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### デフォルト

なし

### コマンド モード

任意のコマンド モード

### サポートされるユーザ ロール

network-admin  
vdc-admin

### リリース

5.2(1)

### 変更箇所

このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

**encryption re-encrypt obfuscated** コマンドを使用した場合、プレーンパスワードや弱く暗号化されたパスワードなどの暗号化シークレットは、マスター キーを使用して暗号化サービスがイネーブルになっている場合、タイプ 6 暗号化に変換されます。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、既存の難読化されたパスワードをタイプ 6 暗号化パスワードに変換する例を示します。

```
switch # encryption re-encrypt obfuscated
```

### 関連コマンド

#### コマンド

**encryption decrypt  
type6**

#### 説明

タイプ 6 暗号化パスワードを元の状態に変換します。

# enrollment terminal

スイッチ コンソールを介した、証明書登録の手作業でのカット アンド ペーストをするには、**enrollment terminal** コマンドを使用します。デフォルトの証明書登録処理に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**enrollment terminal**

**no enrollment terminal**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## デフォルト

デフォルトの方法は手作業でのカット アンド ペーストで、これは、Cisco NX-OS ソフトウェアがサポートする唯一の登録方法です。

## コマンド モード

トラストポイント コンフィギュレーション

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.1(2)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次の例では、スイッチ コンソールを使用してトラストポイント登録を設定する方法を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# crypto ca trustpoint admin-ca
switch(config-trustpoint)# enrollment terminal
```

次の例では、スイッチ コンソールを使用してトラストポイント登録を廃棄する方法を示します。

```
switch(config)# crypto ca trustpoint admin-ca
switch(config-trustpoint)# no enrollment terminal
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>crypto ca authenticate</b>	認証局の証明書を認証します。

# eou allow clientless

クライアントレス エンドポイント デバイスの Extensible Authentication Protocol over User Datagram Protocol (EAPoUDP) ポスチャ検証をイネーブルにするには、**eou allow clientless** コマンドを使用します。クライアントレス エンドポイント デバイスのポスチャ検証をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

**eou allow clientless**

**no eou allow clientless**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## デフォルト

ディセーブル

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

## サポートされるユーザロール

network-admin  
vdc-admin

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

EAPoUDP を設定する前に、**feature eou** コマンドを使用する必要があります。  
このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、クライアントレス エンドポイント デバイスの EAPoUDP ポスチャ検証を許可する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# eou allow clientless
```

次に、クライアントレス エンドポイント デバイスの EAPoUDP ポスチャ検証が行われないようにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# no eou allow clientless
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<code>feature eou</code>	EAPoUDP をイネーブルにします。
<code>show eou</code>	EAPoUDP 情報を表示します。

# eou default

EAPoUDP のグローバルまたはインターフェイスの設定値をデフォルトに戻すには、**eou default** コマンドを使用します。

## eou default

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### デフォルト

なし

### コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション  
インターフェイス コンフィギュレーション

### サポートされるユーザロール

network-admin  
vdc-admin

### コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

EAPoUDP を設定する前に、**feature eou** コマンドを使用する必要があります。  
このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、グローバル EAPoUDP 設定をデフォルトに変更する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# eou default
```

次に、インターフェイスの EAPoUDP 設定をデフォルトに変更する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# eou default
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>feature eou</b>	EAPoUDP をイネーブルにします。
<b>show eou</b>	EAPoUDP 情報を表示します。



# eou initialize

EAPoUDP セッションを初期化するには、**eou initialize** コマンドを使用します。

```
eou initialize {all | authentication {clientless | eap | static} | interface ethernet slot/port |
ip-address ipv4-address | mac-address mac-address | posturetoken name}
```

## 構文の説明

<b>all</b>	すべての EAPoUDP セッションを初期化します。
<b>authentication</b>	特定の認証タイプの EAPoUDP セッションを初期化します。
<b>clientless</b>	クライアントレス ポスチャ検証を使用して認証されたセッションを指定します。
<b>eap</b>	EAPoUDP を使用して認証されたセッションを指定します。
<b>static</b>	静的に設定された例外リストを使用して認証するセッションを指定します。
<b>interface ethernet slot/port</b>	特定のインターフェイスの EAPoUDP セッションを初期化します。
<b>ip-address ipv4-address</b>	特定の IPv4 アドレスの EAPoUDP セッションを初期化します。
<b>mac-address mac-address</b>	特定の MAC アドレスの EAPoUDP セッションを初期化します。
<b>posturetoken name</b>	特定のポスチャ トークンの EAPoUDP セッションを初期化します。

## デフォルト

なし

## コマンドモード

任意のコマンドモード

## サポートされるユーザロール

network-admin  
vdc-admin

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

EAPoUDP を設定する前に、**feature eou** コマンドを使用する必要があります。  
このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、すべての EAPoUDP セッションを初期化する例を示します。

```
switch# eou initialize all
```

次に、静的に認証された EAPoUDP セッションを初期化する例を示します。

```
switch# eou initialize authentication static
```

次に、インターフェイスの EAPoUDP セッションを初期化する例を示します。

```
switch# eou initialize interface ethernet 1/1
```

次に、IP アドレスの EAPoUDP セッションを初期化する例を示します。

```
switch# eou initialize ip-address 10.10.1.1
```

次に、MAC アドレスのすべての EAPoUDP セッションを初期化する例を示します。

```
switch# eou initialize mac-address 0019.076c.dac4
```

次に、ポストチャ トークンのすべての EAPoUDP セッションを初期化する例を示します。

```
switch# eou initialize posturetoken healthy
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>feature eou</b>	EAPoUDP をイネーブルにします。
<b>show eou</b>	EAPoUDP 情報を表示します。

# eou logging

EAPoUDP ロギングをイネーブルにするには、**eou logging** コマンドを使用します。EAPoUDP ロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**eou logging**

**no eou logging**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## デフォルト

グローバル コンフィギュレーション：ディセーブル

インターフェイス コンフィギュレーション：グローバル コンフィギュレーション設定

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション

インターフェイス コンフィギュレーション

## サポートされるユーザロール

network-admin  
vdc-admin

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

インターフェイス上の EAPoUDP ロギングの設定はグローバル設定を上書きします。EAPoUDP を設定する前に、**feature eou** コマンドを使用する必要があります。このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、グローバル EAPoUDP ロギングをイネーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# eou logging
```

次に、グローバル EAPoUDP ロギングをディセーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# no eou logging
```

次に、インターフェイスの EAPoUDP ロギングをイネーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# eou logging
```

次に、インターフェイスの EAPoUDP ログングをディセーブルにする例を示します。

```
switch# config t  
switch(config)# interface ethernet 1/1  
switch(config-if)# no eou logging
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>feature eou</b>	EAPoUDP をイネーブルにします。
<b>show eou</b>	EAPoUDP 情報を表示します。

# eou max-retry

EAPoUDP の最大試行回数をグローバルに、またはインターフェイス単位で設定するには、**eou max-retry** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**eou max-retry count**

**no eou max-retry**

## 構文の説明

<i>count</i>	最大リトライ試行回数。有効範囲は 1 ～ 3 回です。
--------------	-----------------------------

## デフォルト

グローバル コンフィギュレーション : 3

インターフェイス コンフィギュレーション : グローバル コンフィギュレーション値

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

インターフェイス コンフィギュレーション

## サポートされるユーザ ロール

network-admin

vdc-admin

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

インターフェイスの最大リトライ回数は、グローバル設定値より優先されます。

EAPoUDP を設定する前に、**feature eou** コマンドを使用する必要があります。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、EAPoUDP のグローバル最大リトライ試行回数を変更する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# eou max-retry 2
```

次に、EAPoUDP のグローバル最大リトライ試行回数の設定をデフォルトに戻す例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# no eou max-retry
```

次に、インターフェイスの EAPoUDP 最大リトライ試行回数を変更する例を示します。

```
switch# config t
switch(config) interface ethernet 1/1
switch(config-if)# eou max-retry 3
```

次に、インターフェイスの EAPoUDP 最大リトライ試行回数の設定をデフォルトに戻す例を示します。

```
switch# config t  
switch(config) interface ethernet 1/1  
switch(config-if) # no eou max-retry
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>feature eou</b>	EAPoUDP をイネーブルにします。
<b>show eou</b>	EAPoUDP 情報を表示します。

# eou port

EAPoUDP の User Datagram Protocol (UDP; ユーザ データグラム プロトコル) ポート番号を設定するには、**eou port** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**eou port** *udp-port*

**no eou port**

## 構文の説明

*udp-port* UDP ポート番号。有効な範囲は 1 ～ 65535 です。

## デフォルト

21862 (0x5566)

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

## サポートされるユーザ ロール

network-admin  
vdc-admin

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

EAPoUDP を設定する前に、**feature eou** コマンドを使用する必要があります。  
このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、EAPoUDP の UDP ポート番号を変更する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# eou port 21856
```

次に、EAPoUDP の UDP ポート番号をデフォルトに戻す例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# no eou port
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>feature eou</b>	EAPoUDP をイネーブルにします。
<b>show eou</b>	EAPoUDP 情報を表示します。

# eou ratelimit

EAPoUDP ポスチャ検証の同時セッション数を設定するには、**eou ratelimit** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**eou ratelimit sessions**

**no eou ratelimit**

## 構文の説明

<i>sessions</i>	EAPoUDP ポスチャ検証の最大同時セッション数。範囲は 0 ~ 200 です。
-----------------	---

## デフォルト

グローバル コンフィギュレーション : 20

インターフェイス コンフィギュレーション : グローバル コンフィギュレーション設定

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション

インターフェイス コンフィギュレーション

## サポートされるユーザロール

network-admin

vdc-admin

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

EAPoUDP レート制限をゼロ (0) に設定すると、ポスチャ検証の同時セッションは許可されません。インターフェイスの EAPoUDP レート制限設定は、グローバル EAPoUDP レート制限設定を上書きします。

EAPoUDP を設定する前に、**feature eou** コマンドを使用する必要があります。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、EAPoUDP ポスチャ検証のグローバル最大同時セッション数を変更する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# eou ratelimit 30
```

次に、EAPoUDP ポスチャ検証のグローバル最大同時セッション数をデフォルトに戻す例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# no eou ratelimit
```



次に、インターフェイスの EAPoUDP ポスチャ検証の最大同時セッション数を変更する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# eou ratelimit 30
```

次に、インターフェイスの EAPoUDP ポスチャ検証の最大同時セッション数をデフォルトに戻す例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# no eou ratelimit
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>feature eou</b>	EAPoUDP をイネーブルにします。
<b>show eou</b>	EAPoUDP 情報を表示します。

# eou revalidate (EXEC)

EAPoUDP セッションを再検証するには、**eou revalidate** コマンドを使用します。

```
eou revalidate {all | authentication {clientless | eap | static} | interface ethernet slot/port
| ip-address ipv4-address | mac-address mac-address | posturement name}
```

## 構文の説明

<b>all</b>	すべての EAPoUDP セッションを再検証します。
<b>authentication</b>	特定の認証タイプの EAPoUDP セッションを再検証します。
<b>clientless</b>	クライアントレス ポスチャ検証を使用して認証されたセッションを指定します。
<b>eap</b>	EAPoUDP を使用して認証されたセッションを指定します。
<b>static</b>	静的に設定された例外リストを使用して認証するセッションを指定します。
<b>interface ethernet slot/port</b>	特定のインターフェイスの EAPoUDP セッションを再検証します。
<b>ip-address ipv4-address</b>	特定の IPv4 アドレスの EAPoUDP セッションを再検証します。
<b>mac-address mac-address</b>	特定の MAC アドレスの EAPoUDP セッションを再検証します。
<b>posturement name</b>	特定のポスチャ トークンの EAPoUDP セッションを再検証します。

## デフォルト

なし

## コマンドモード

任意のコマンドモード



(注)

Cisco NX-OS ソフトウェアは、グローバル コンフィギュレーション モードの **eou revalidate** コマンドをサポートします。グローバル コンフィギュレーション モードで EXEC レベルの **eou revalidate** コマンドを使用するには、必須キーワードを指定します。

## サポートされるユーザロール

network-admin  
vdc-admin

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

EAPoUDP を設定する前に、**feature eou** コマンドを使用する必要があります。  
このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

**例**

次に、すべての EAPoUDP セッションを再検証する例を示します。

```
switch# eou revalidate all
```

次に、すべての EAPoUDP セッションを再検証する例を示します。

```
switch# eou revalidate authentication static
```

次に、すべての EAPoUDP セッションを再検証する例を示します。

```
switch# eou revalidate interface ethernet 1/1
```

次に、すべての EAPoUDP セッションを再検証する例を示します。

```
switch# eou revalidate ip-address 10.10.1.1
```

次に、すべての EAPoUDP セッションを再検証する例を示します。

```
switch# eou revalidate mac-address 0019.076c.dac4
```

次に、すべての EAPoUDP セッションを再検証する例を示します。

```
switch# eou revalidate posturetoker healthy
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>feature eou</b>	EAPoUDP をイネーブルにします。
<b>show eou</b>	EAPoUDP 情報を表示します。

# eou revalidate (グローバル コンフィギュレーション、インターフェイス コンフィギュレーション)

EAPoUDP セッションの定期的な自動再検証をグローバルに、または特定のインターフェイスでイネーブルにするには、**eou revalidate** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**eou revalidate**

**no eou revalidate**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## デフォルト

グローバル コンフィギュレーション：イネーブル

インターフェイス コンフィギュレーション：グローバル コンフィギュレーション値

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション

インターフェイス コンフィギュレーション

## サポートされるユーザロール

network-admin

vdc-admin

## コマンド履歴

リリース

変更箇所

4.0(1)

このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

インターフェイスの自動再検証の設定は、グローバル自動再検証の設定を上書きします。



(注)

Cisco NX-OS ソフトウェアは、EXEC コンフィギュレーション モードの **eou revalidate** コマンドをサポートします。グローバル コンフィギュレーション モードで EXEC レベルの **eou revalidate** コマンドを使用するには、必須キーワードを指定します。

EAPoUDP を設定する前に、**feature eou** コマンドを使用する必要があります。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、EAPoUDP セッションのグローバル自動再検証をディセーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# no eou revalidate
```

次に、EAPoUDP セッションのグローバル自動再検証をイネーブルにする例を示します。

```
switch# config t  
switch(config)# eou revalidate
```

次に、インターフェイスの EAPoUDP セッションの自動再検証をディセーブルにする例を示します。

```
switch# config t  
switch(config)# no eou revalidate
```

次に、インターフェイスの EAPoUDP セッションの自動再検証をイネーブルにする例を示します。

```
switch# config t  
switch(config)# eou revalidate
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>feature eou</b>	EAPoUDP をイネーブルにします。
<b>eou timeout</b>	EAPoUDP の定期的な自動再検証のタイムアウト間隔を設定します。
<b>show eou</b>	EAPoUDP 情報を表示します。

# eou timeout

EAPoUDP グローバル タイマーまたはインターフェイスの EAPoUDP タイマーのタイムアウト間隔を設定するには、**eou timeout** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**eou timeout** {*aaa seconds* | **hold-period** *seconds* | **retransmit** *seconds* | **revalidation** *seconds* | **status-query** *seconds*}

**no eou timeout** {*aaa* | **hold-period** | **retransmit** | **revalidation** | **status-query**}

## 構文の説明

<b>aaa seconds</b>	AAA タイムアウト間隔を指定します。有効な範囲は 0 ～ 60 秒です。 (注) AAA タイムアウト間隔をゼロ (0) に設定すると、AAA タイマーがディセーブルになります。
<b>hold-period seconds</b>	ホールド タイムアウト間隔を指定します。有効な範囲は 60 ～ 86400 秒です。
<b>retransmit seconds</b>	再送信タイムアウト間隔を指定します。有効な範囲は 1 ～ 60 秒です。
<b>revalidation seconds</b>	定期的な自動再検証タイムアウト間隔を指定します。指定できる範囲は 5 ～ 86400 秒です。
<b>status-query seconds</b>	ステータス クエリー タイムアウト間隔を指定します。有効な範囲は 10 ～ 1800 秒です。

## デフォルト

グローバル AAA タイムアウト間隔：60 秒 (1 分)  
 グローバル ホールド時間タイムアウト：180 秒 (3 分)  
 グローバル再送信タイムアウト間隔：3 秒  
 グローバル再検証タイムアウト間隔：36000 秒 (10 時間)  
 グローバル ステータス クエリー タイムアウト間隔：300 秒 (5 分)  
 インターフェイス タイムアウト間隔：グローバル コンフィギュレーション値

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション  
 インターフェイス コンフィギュレーション

## サポートされるユーザロール

network-admin  
 vdc-admin

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

インターフェイス タイマーのタイムアウト間隔値は、グローバル タイムアウト値を上書きします。EAPoUDP を設定する前に、**feature eou** コマンドを使用する必要があります。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

---

**例**

次に、グローバル AAA タイムアウト間隔を変更する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# eou timeout aaa 50
```

次に、インターフェイスの AAA タイムアウト間隔を変更する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# eou timeout aaa 60
```

次に、グローバル ホールド時間タイムアウト間隔を変更する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# eou timeout hold-period 480
```

次に、インターフェイスのホールド時間タイムアウト間隔を変更する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# eou timeout hold-period 540
```

次に、グローバル再送信タイムアウト間隔を変更する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# eou timeout retransmit 5
```

次に、インターフェイスの再送信タイムアウト間隔を変更する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# eou timeout retransmit 4
```

次に、グローバル再検証タイムアウト間隔を変更する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# eou timeout revalidation 34000
```

次に、インターフェイスの再検証タイムアウト間隔を変更する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# eou timeout revalidation 30000
```

次に、グローバル ステータス クエリー タイムアウト間隔を変更する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# eou timeout status-query 240
```

次に、インターフェイスのステータス クエリー タイムアウト間隔を変更する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# eou timeout status-query 270
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>feature eou</b>	EAPoUDP をイネーブルにします。
<b>eou revalidate</b> (グローバル コンフィギュレーション)	エンドポイント デバイスの定期的な自動再検証をイネーブルにします。
<b>show eou</b>	EAPoUDP 情報を表示します。



# eq

単一ポートを IP ポート オブジェクト グループのグループ メンバーとして指定するには、**eq** コマンドを使用します。ポート オブジェクト グループから単一のポート グループ メンバーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
[sequence-number] eq port-number
```

```
no {sequence-number | eq port-number}
```

## 構文の説明

<i>sequence-number</i>	(任意) このグループ メンバーのシーケンス番号。シーケンス番号は、オブジェクト グループ内でグループ メンバーの順序を保ちます。有効なシーケンス番号は 1 ~ 4294967295 です。シーケンス番号を指定しない場合、デバイスは最大シーケンス番号より 10 大きい番号を現在のオブジェクト グループに割り当てます。
<i>port-number</i>	このグループ メンバーが一致するポート番号。有効なポート番号は、0 ~ 65535 です。

## デフォルト

なし

## コマンド モード

IP ポート オブジェクト グループ コンフィギュレーション

## サポートされるユーザ ロール

network-admin  
vdc-admin

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

IP ポート オブジェクト グループには方向性がありません。**eq** コマンドが送信元ポートまた宛先ポートのいずれに一致するか、またインバウンドとアウトバウンドのいずれのトラフィックに適用されるかは、ACL でオブジェクト グループをどのように使用するかによって決まります。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、port-group-05 という名前の IP ポート オブジェクト グループを作成し、ポート 443 で送受信されたトラフィックと一致させるグループ メンバーを設定する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# object-group ip port port-group-05
switch(config-port-ogroup)# eq 443
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>gt</b>	IP ポート オブジェクト グループに <b>greater-than</b> (より大きい) グループ メンバーを指定します。
<b>lt</b>	IP ポート オブジェクト グループに <b>less-than</b> (より小さい) グループ メンバーを指定します。
<b>neq</b>	IP ポート オブジェクト グループに <b>not-equal-to</b> (等しくない) グループ メンバーを指定します。
<b>object-group ip port</b>	IP ポート オブジェクト グループを設定します。
<b>range</b>	IP ポート オブジェクト グループに <b>port-range</b> グループ メンバーを指定します。
<b>show object-group</b>	オブジェクト グループを表示します。